金子堅太郎（かねこけんたろう）政治家。嘉永六年二月四日筑前國生れ、昭和十七年五月十六日歿（一八五三―一九四二）。號溪水、溪水堂、溪水居士。藩黌修猷館に學ぶ。明治四年アメリカに渡り、ハーバード大學卒。歸國後元老院に入り、制度取調局員を經て、十八年總理大臣秘書官、伊藤博文の下（もと）に明治憲法草案の起草に從事。その後貴族院書記官長、貴族院議員、農商務相、法相、樞密顧問官等歴任。この間（かん）二十三年、立憲政友會創立に參劃。また日露戰爭當時、アメリカで對米工作に當り、輿論を親日に導くなどした。雜新史料編纂會總裁、伯爵。漢詩を能くす。

著書に『日露戰爭當時に於ける內地と米國との關係』（大正十二年五月麻布聯隊區將校團「麻布聯隊區將校團」臨時報）、『日露戰爭の回顧』（昭和二年六月二十日竹馬會「山階パンフレット」）、『帝國憲法制定の精神・歐米各國學者政治家の評論』（昭和十年八月二十一日文部省「憲法教育資料」）、『日本憲法の精神』（昭和十年九月四日今日の問題社）、『大日本帝國憲法・帝國憲法制定の精神・歐米各國學者政治家の評論』（昭和十年九月四日大日本圖書株式會社）、『憲法制定と歐米人の評論』（昭和十二年十一月十八日日本青年館、十三年八月二十五日日本青年館・金子伯爵功績顯彰會）、『伊藤公を語る』（平塚篤編、昭和十四年十月二十六日興文社）、『日本に還る』（廣野道太郎編、昭和十六年六月二十日興亞日本社）等。